

# 伊是名村人口ビジョン・総合戦略 概要版



平成 28 年 3 月

沖縄県伊是名村

戦略策定の背景と目的

本村の人口は、若年層の減少とともに少子高齢化が進み、村経済発展の阻害要因となっています。人口はいったん減り始めると、それを回復させることは容易でないことから、『第4次伊是名村総合計画』においては、「歴史と自然、人が共生する伊是名村」を将来像として、村の主要産業である農林水産業や自然・歴史文化の資源を活かした観光産業等の創出を図ることで、住民と行政が一体となった活力ある協働のしまづくりを目指すとしています。

にもかかわらず本村の人口は減り続けており、このままでは、村の存続にもかわる深刻な事態を招きかねません。このため、交流事業や六次産業を誘発するなど、中長期的に村外から人を呼び込むことにより急速な人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある地域社会を維持するため、まち・ひと・しごと創生法に基づき、伊是名村総合戦略を策定するものです。

地方版総合戦略の位置付け

地方版総合戦略は、国の「長期ビジョン」と「総合戦略」を踏まえ、地方特性を勘案して地方版の人口ビジョンを策定するとともに、今後5か年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

本戦略の期間

人口ビジョンの目標年次は、国の長期ビジョンの期間に合わせて、平成 72 (2060) 年とし、5年ごとに人口の推計を行います。

また、「地方版総合戦略」の目標年次は、平成 31 (2019) 年とします。

本村の概要

本村は、沖縄本島の北方に位置し、総面積は15.42km<sup>2</sup>で主島の伊是名島(14.16km<sup>2</sup>)が総面積の9割を占め、次いで屋那覇島(0.74km<sup>2</sup>)、具志川島(0.47km<sup>2</sup>)、降神島(0.01km<sup>2</sup>)の4島から成り立っています。

島の周囲は16.7kmでほぼ円形を成しており、島の南東から北西へ向けて、100前後(最高峰は大野山の120m)の山々が連なり、これらを分水嶺として、東部と西部の海岸線へ緩やかな勾配をもって農耕地・集落が広がっています。集落は、海岸沿いに発展し、南に伊是名区、東に仲田区・諸見区、北に内花区、西に勢理客区の集落からなっています。

また、本村は特に優れた自然環境を有しており、伊是名山を自然環境保全地域に指定し、自然環境の適正な保全を図っています。歴史的には第一尚氏王統の元祖及び第二尚氏王統の始祖尚円王の生誕の地として知られ、それにまつわる歴史文化遺産も数多く残されています。

【イヒャ・ジュテー】



【フクギの並木】

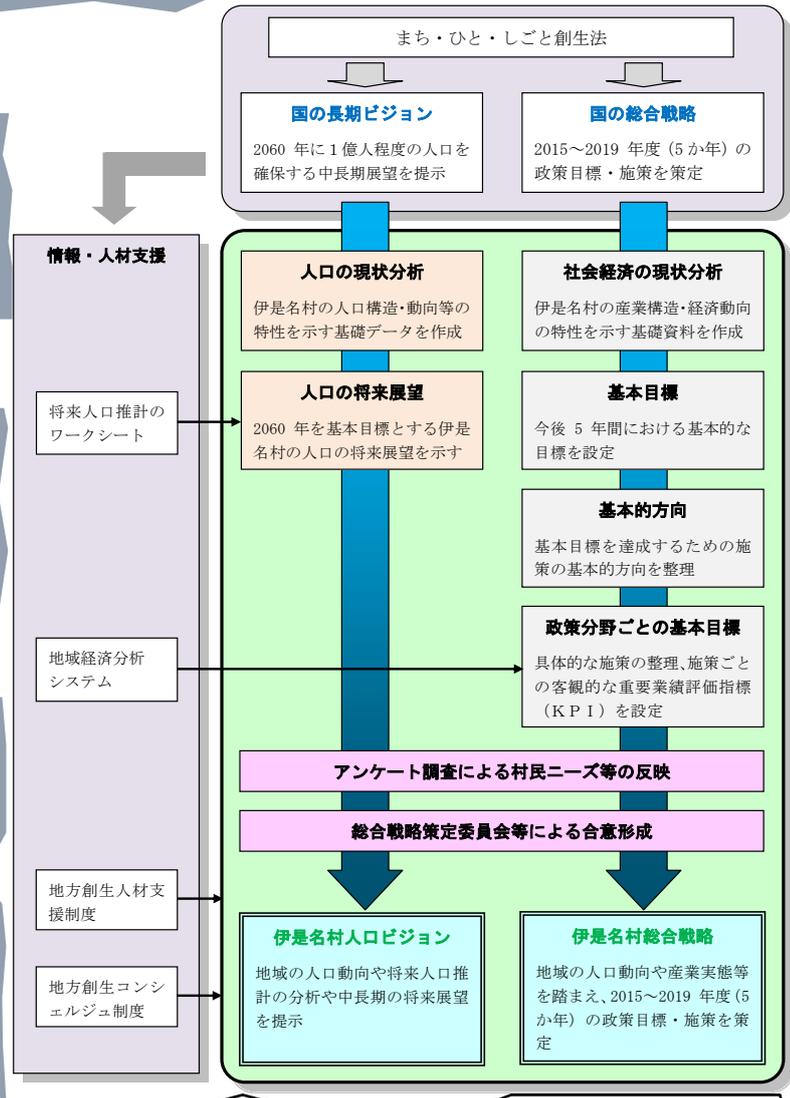


【海へつづくウジー道】



伊是名島は、特異性を有する動植物と自然景観を保有し、歴史・文化にあふれています。古民家の縁側でお茶に呼ばれ、フクギ並木の緑陰で一休みし、海へ続くさとうきび畑の畔道でふと旅情にさそわれる、そんな魅力あふれた島です。

【尚円王まつり】



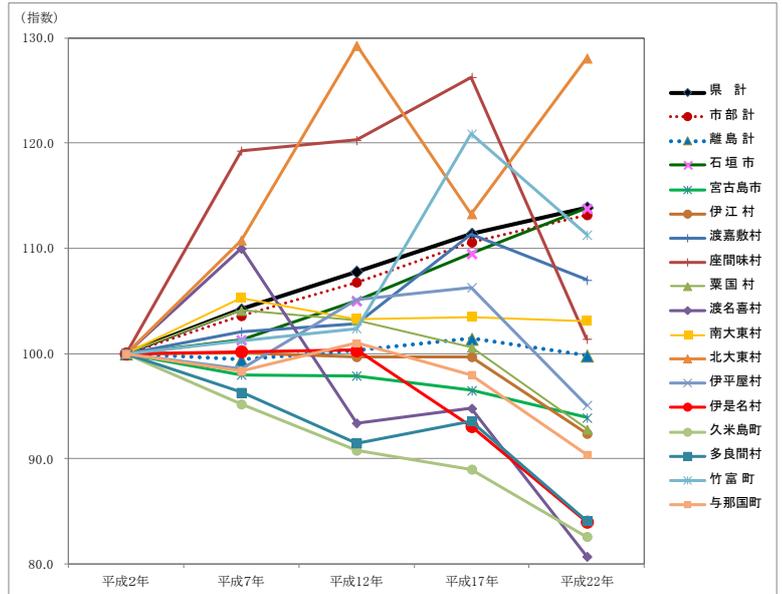
# 本村の人口ビジョン

## 人口推移（国勢調査）

平成2年からの人口の推移をみると、本村は平成12年までは横ばいで推移していましたが、平成17年に減少に転じ、平成22年にはさらに減少し平成2年に比べ16%減少しています。

性別にみると、平成2年と比べ、男性は平成12年まではプラス側（増加）、平成17年以降はマイナス側（減少）にあります。一方、女性は常にマイナス側（減少）にあり、女性の人口減少が深刻となっています。

また、平成22年の3階級別人口をみると、本村は他の離島の自治体と比べ、少子高齢化の傾向は中位よりやや進んでいる状態です。15歳～64歳の生産年齢人口の割合は55%で、離島計（62%）より7ポイント低くなっています。

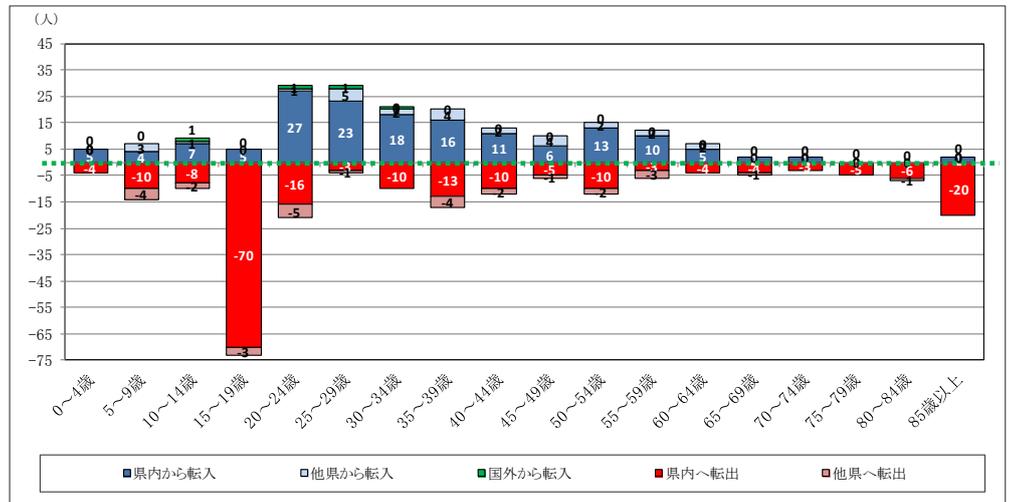


## 就業者

本村の産業分類別の就業者数をみると、「農業」が148人と最も多く、次いで「建設業」94人、「医療、福祉」73人、「公務」63人の順となっています。女性の就業率が比較的高いのは、「医療、福祉」、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」などとなっていますが、全般的に女性の就業率は低いのが現状です。

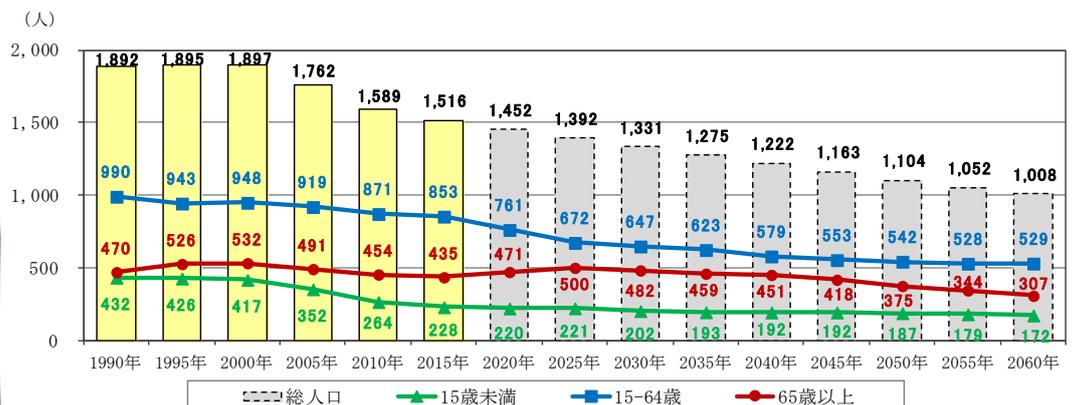
## 転入・転出

転入・転出の状況を年代別にみると、「15～19歳」で大きく転出した人口が「20～24歳」から徐々に戻ってきますが、65歳以上になると、ほぼ転入はなく転出が上回っています。つまり、高校進学、結婚・出産、定年退職、最終介護の時期に大きな変動がみられます。特に85歳以上で転出が極端に多い理由は、村内に充実した介護施設がないことが要因であると考えられます。



## 現状推移予測

現在のまま推移した場合の将来予測は、15歳未満と15歳から64歳までが漸減、65歳以上が2025年まで増加したあとやや減少するとなっています。その結果、総人口は2060年に1,008人となり、現状の2010年より37%減少することになります。



## 人口の長期目標

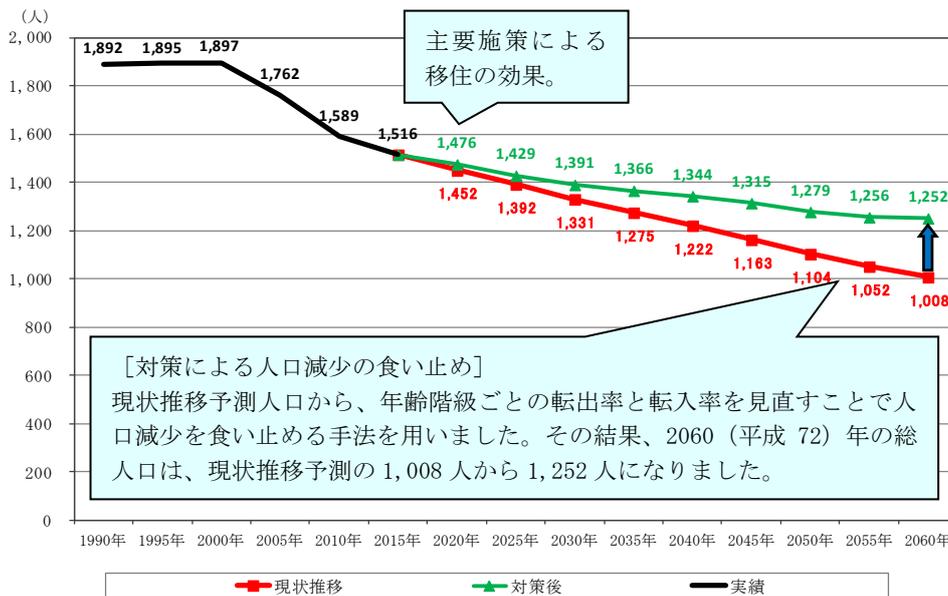
国の長期ビジョンでは、「2060年に1億人程度の人口を確保する」としていることから、本村においても、様々な条件は異なるものの、国と同等の目標を掲げることが相当であるとし、人口の長期目標を、「2060年に1,250人程度の人口を確保する」とします。

## 【本村の人口の長期目標】

# 「2060年に1,250人程度の人口を確保する」

	2010(平成22)年	2060(平成72)年	倍率(2060年/2010年)
日本	128,057千人	100,000千人	0.78倍
伊是名村	1,589人	1,250人	0.79倍

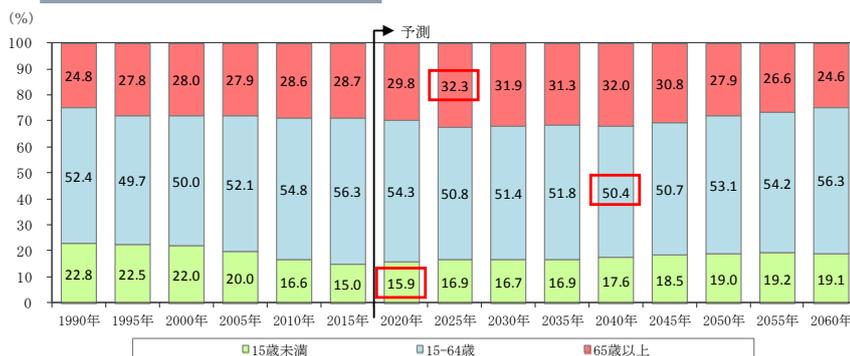
## 対策後の将来予測



総合戦略の主要施策による2020年の移住者に加え、更に施策体系に基づく種々の施策の継続によって転出者を減らし転入者を増やして将来人口の減少に歯止めをかけると、2060年の人口は1,252人になると推計されます。

現状推移 総人口 1,008人 → 対策後 1,252人

## 社会経済に与える影響

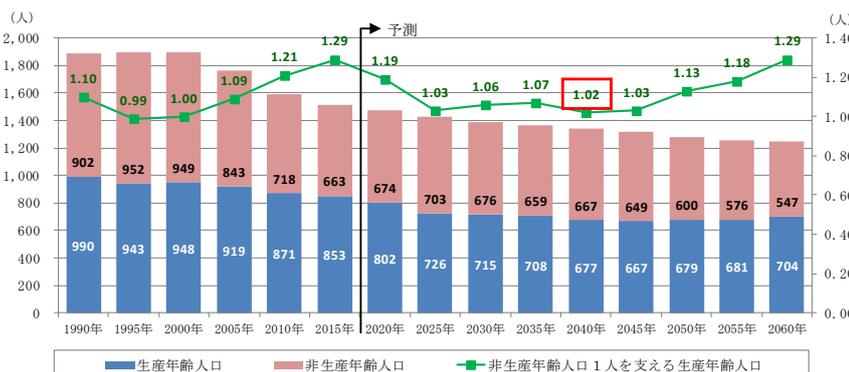


対策後の3階級別の構成比をみると、15歳未満の最低割合、15~64歳の生産年齢人口の最低割合、65歳以上の最高割合は、いずれも以下のように改善されます。

	現状推移	対策後
15歳未満	15.1%	15.9%
15~64歳	47.4%	50.4%
65歳以上	36.9%	32.3%

同じく15歳未満と65歳以上の非生産年齢人口1人を、15~64歳の生産年齢人口が何人で支えるかについても、以下のように改善されます。

	現状推移	対策後予測
最もきびしい支える人数(生産年齢人口)	0.90人	1.02人



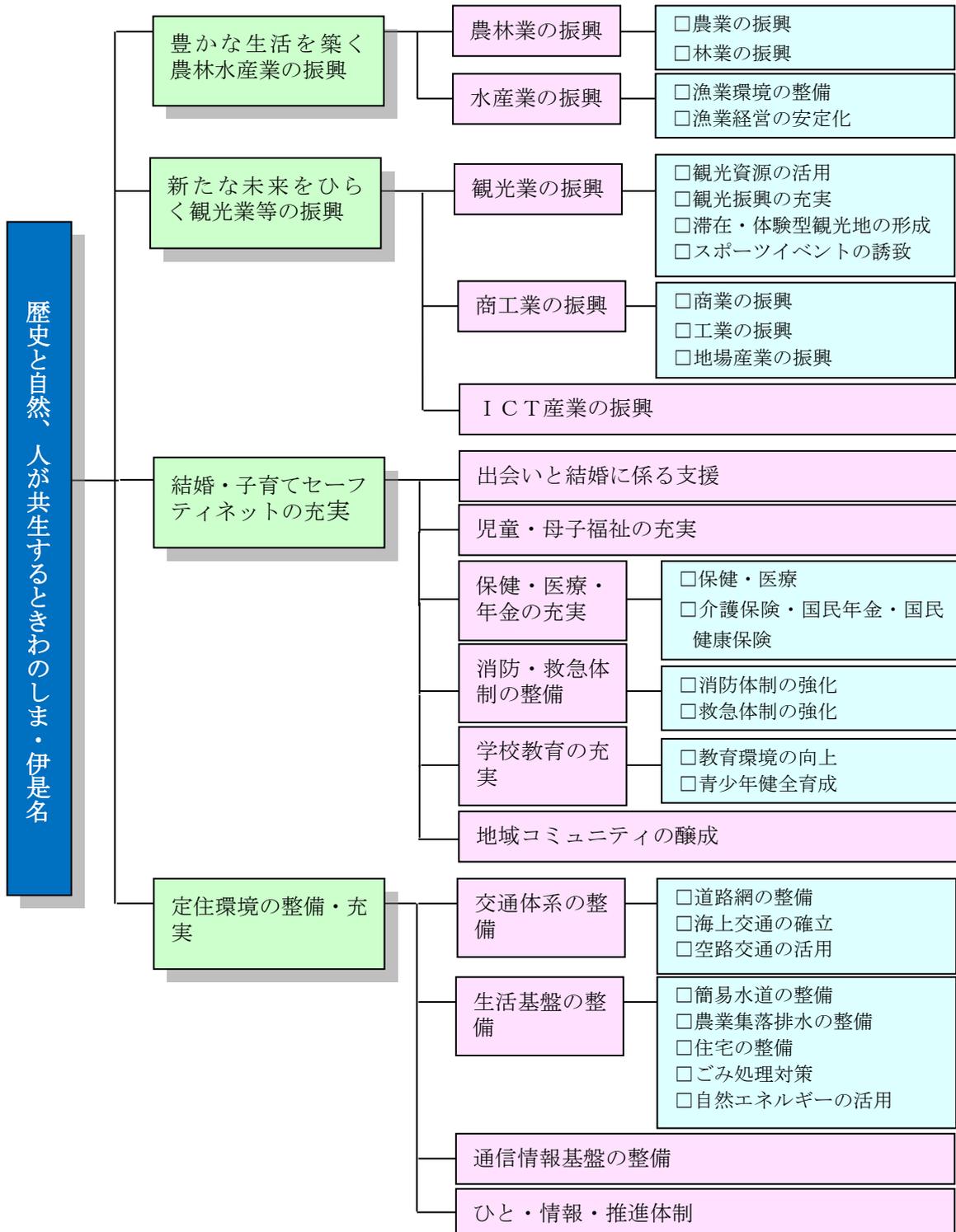
# 政策分野・施策体系

本戦略の施策体系は以下のとおりであり、国の総合戦略や沖縄県人口増加計画、伊是名村の総合計画等を踏まえ、第4次伊是名村総合計画の目標である『歴史と自然、人が共生するときわのしま・伊是名』を実現するため、以下の4つの政策分野について施策を展開していきます。

## 【国の総合戦略が定める政策分野】

- ① 地方における安定した雇用を創出する。
- ② 地方への新しい人の流れをつくる。
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。
- ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

## 施策体系



# KPIと重点施策

## KPIの設定

国の総合戦略が定める4つの政策分野において、本村として特に重点的に推進すべき施策をKPI（重要業績評価指標）として以下のように設定します。

施策分野	項目	現 状	数値目標 平成31年度	担 当	
産業振興	農林水産業 (雇用)	農林水産物の地産地消の推進 (需要量に対する利用率)	(4人)	農林水産課	
		給食における野菜の利用率	30%		
		給食における米の利用率	100%		
		名産品や特産品の新規開発	— 3品目 (6人)		商工観光課
		民泊参加農家数	70~80戸		現状維持
		農漁業就労者数	335人	350人	農林水産課
	観光 (人の流れ)	地域おこし協力隊	—	(3人)	企画政策課
		古民家修復・復元	3戸 (6人)	6戸 (25人)	企画政策課
		農家民泊利用者数	1万人	1万人	商工観光課
		伊是名版琉球歴史ロマン街道「宿道」(夢街道ルネサンス)	—	基本設計完了 (2人)	商工観光課
		スポーツ交流の推進 (スポーツアイランド構想の推進)	900人	現状維持	企画政策・建設環境課
		新規観光メニューの開発	—	(2人)	企画政策課
結婚・子育て	婚活機会の創出 (出会い幹旋者 [くどき隊])	—	4回	企画政策・商工観光課	
	子育て支援	—	維持・拡大	住民福祉課	
	保育料の無料化	—	実現化	住民福祉課	
	学校給食の無料化	—	実現化	教育振興課	
まちづくり	Uターンや移住者の受入のための定住促進住宅整備	—	実現化	企画政策課	
	ICTの充実・高度利用	—	実現化	総務課	
	伊平屋・伊是名架橋建設計画の促進 (県事業)	—	事業化準備	企画政策課	
	再生可能エネルギーの導入	—	50kW	建設環境課	
総合指標	転入者(移住者)		(42人)	住民福祉課(集計)	

注1) (○人) は移住者の数。

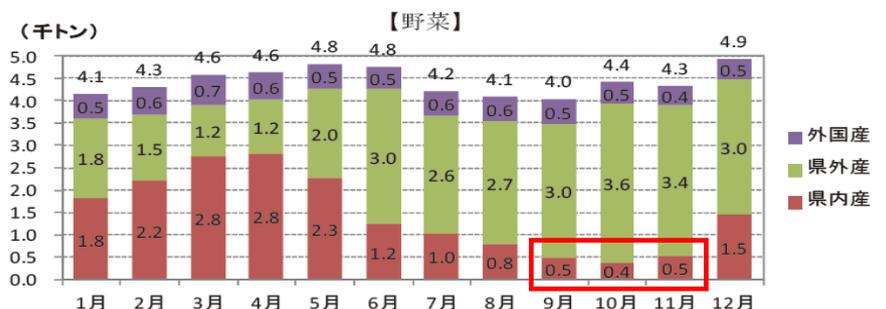
注2) 表中のゴシック文字は、総合戦略の重点施策です。

## 地産地消の推進

県内産の野菜の取扱量は、9月～11月の秋の時期に極端に少なくなることから、この時期に合わせて植物工場等で野菜を生産すれば、単位生産量当たりかなりの収入が見込めます。

その際、利用先によって生産する作物が変わってくるので、売り先をしっかりと確保した品目別営農計画が重要になります。

沖縄県中央卸売市場の月別取扱数量(2012年)



## 古民家修復・復元

本村には人が住まなくなった赤瓦の古民家が多く残されています。特に伊是名集落と勢理客集落にはまとまっており、沖縄らしい特有の景観を形成しています。修復・復元にあたっては、周囲の集落景観を損ねることなく、調和あるものとして。



## 伊是名版琉球歴史ロマン街道

夢街道ルネサンスとして、沖縄県には、「やんばる風景花街道」「琉球歴史ロマン街道『宿道』」(中部、南部)の3ルートがあります。この歴史ロマン街道を、海を隔てた伊是名村まで延長し、伊是名集落と勢理客集落に比較的まとまっている沖縄らしい特有の集落景観を活かした「宿道」の実現を目指します。

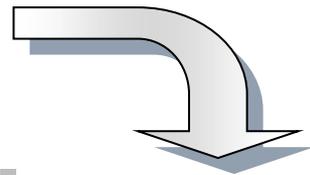
伊是名集落においては、国指定重要文化財である銘苅家をはじめとして、サンゴを平積みした石垣、フクギの屋敷敷などで構成される伝統的な集落景観が形成されています。

尚円王の生誕地である伊是名においては、公事清明祭やサムレー道、みほそ所で催される御座楽など、伝説を語りつく景観が形成されていることから、これらを観光資源として活かすため、新たな観光コースを開拓します。

銘苅家住宅 (国指定重要文化財)



サンゴ石垣の屋敷囲い



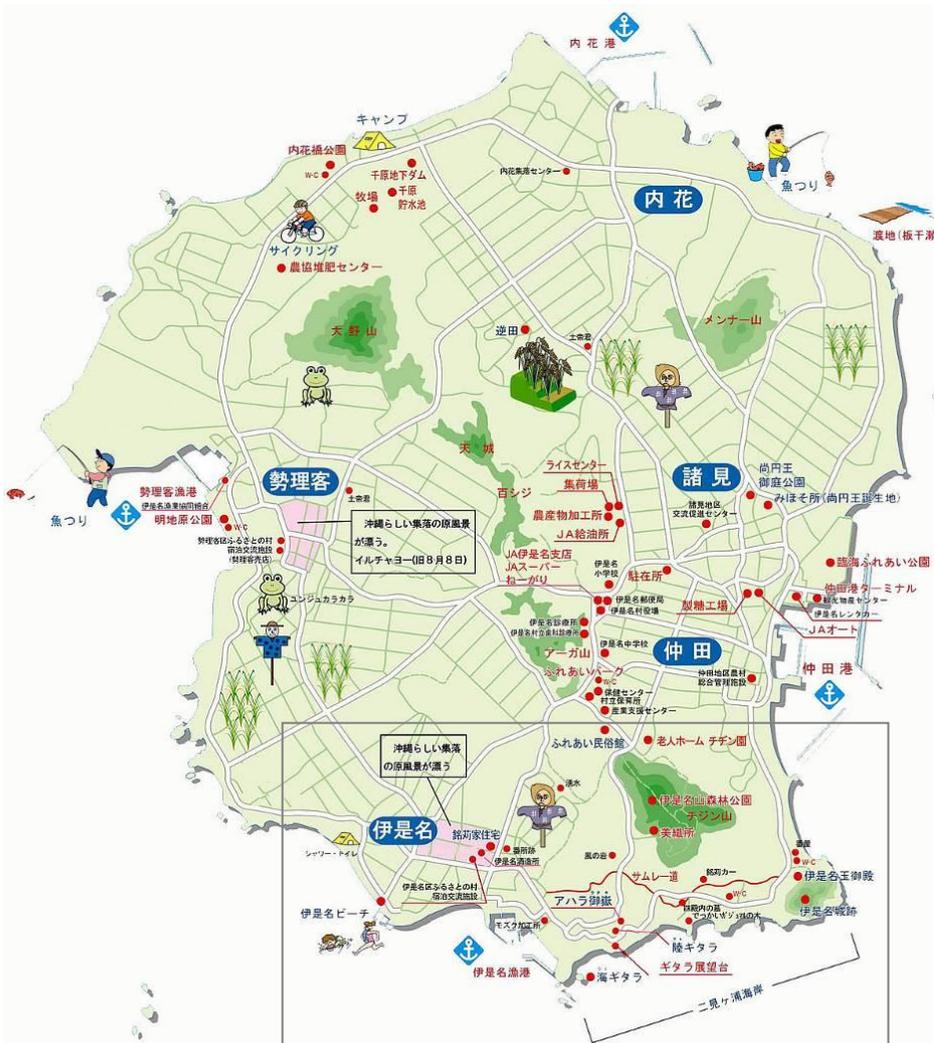
サムレー道



伊是名城跡



伊是名玉御殿



## スポーツアイランド構想

「第4次伊是名村総合計画」では、住民の健康づくりや生きがいづくりなど、それぞれの体力や年齢に応じて気軽にスポーツを楽しむことのできるスポーツ環境づくりを推進するとしています。本村では、モータースポーツで開催実績のある場外離着陸場を、村民の健康増進のみならず、島外からのスポーツ人口を呼び込む場として整備することを検討します。



## ICTの充実・高度利用

本村においては、公共施設や各家庭でブロードバンドが利用できる環境が整備されていますが、今後は、産業や観光におけるPRやマーケティング戦略に活用していくとともに、医療や教育の現場での高度利用方策を検討し、格差の是正に取り組んでいきます。

## 伊平屋・伊是名架橋建設計画

伊平屋と伊是名の架橋建設は約50年前から両島の悲願でありながら、しばらく休眠状態にありましたが、伊良部架橋の建設・供用を機に、最近再びその機運が盛り返ってきています。伊平屋空港（野甫島）の建設が実現しつつあるいま、海上輸送のみに頼ってきた沖縄本島との移動が、空路に拡大することは、両島の島民にとって、大きな希望と便益をもたらすものと期待されます。



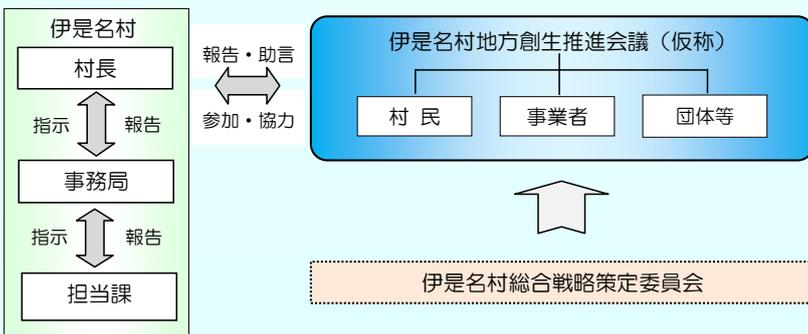
**伊平屋・伊是名架橋早期実現総決起大会同時開催**  
 日時：平成26年4月17日(木)午後6時  
 場所：産業支援センター

伊は夢を、平屋は未来を、七つ平屋島に架かる橋を、みれば一たび、力を合わせる！

伊平屋～伊是名架橋完成予想図

主催：伊平屋・伊是名架橋建設促進協議会

## 戦略の推進



本戦略の推進にあたって、広く関係者の意見を反映させるため、村民・団体・事業者・行政等で構成する「伊是名村地方創生推進会議（仮称）」を設置し、同会議において、本戦略に基づく取組の進捗状況について報告を行い、戦略の見直しを行うなど戦略の着実な推進を図ります。

本戦略の推進にあたって、施策ごとの進捗状況を把握するため、重要業績評価指標（KPI）を設定し、重点施策の進捗状況や社会経済情勢の変化に柔軟に対応していくこととしています。

沖縄県は、総合戦略に係る様々な補助メニューを用意していますが、農家等の事業者が単独でこれらの申請手続きを行うのは困難と考えられるため、村は**相談窓口（企画政策課）**を設置して、必要な助言や支援を行います。また、総合戦略の推進を図るために、村のホームページや広報等を通じて、総合戦略の周知に努めます。



### 伊是名村人口ビジョン・総合戦略 概要版

伊是名村企画政策課

〒905-0695 沖縄県島尻郡伊是名村字仲田 1203 番地

TEL 0980-45-2001 FAX 0980-45-2467

<http://vill.izenan.okinawa.jp/>